



ひと ゆめ みどり
第67回 信濃から 未来へつなぐ 森づくり
全国植樹祭 ながの
2016

主催 公益社団法人国土緑化推進機構・長野県





ひと ゆめ みどり
第67回 信濃から 未来へつなぐ 森づくり

全国植樹祭 ながの 2016

目 次

● 式典スケジュール	1
● 開催概要	2
● 開催会場	4
● 植樹行事	6
● 式典紹介	9
● 感謝状・記念切手贈呈	13
● 平成28年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール	14
● 平成27年度緑化功労者	16
● 平成27年度全日本学校関係緑化コンクール	19
● 長野県みどりの功労者	22
● 大会宣言	23
● 記念事業・関連事業	24
● おもてなし広場マップ	28
● 大会弁当	30
● 協賛一覧	32
● 「故郷」・長野県歌「信濃の国」〈裏表紙〉	



式典スケジュール

プロローグ 10:20~	プロローグアトラクション (ようこそ信州へ)	
	感謝状贈呈	贈呈：長野県知事 受贈：各受贈者
	東日本大震災復興支援	目録贈呈：長野県知事 受贈：東北3県(岩手県、宮城県、福島県)各代表者
	記念切手贈呈	贈呈：日本郵便(株)代表取締役社長 受贈：長野県知事
	長野県の紹介と映像	
	式典行事のご案内	
記念式典 11:00~	天皇・皇后両陛下 御徒歩・御着席	御先導：長野県知事 お出迎え：大会会長 (公社)国土緑化推進機構理事長
	開会のことば	(公社)国土緑化推進機構副理事長
	三旗掲揚・国歌斉唱	みどりの少年団 日本ボーイスカウト長野県連盟 (一社)ガールスカウト長野県連盟
	主催者挨拶	大会会長、長野県知事
	表彰 ●国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール ●緑化功労者 ●全日本学校関係緑化コンクール ●長野県みどりの功労者	表彰：大会会長 農林水産大臣 文部科学大臣 長野県知事 受賞：代表受賞者
	苗木の贈呈	贈呈：みどりの少年団 受贈：農林水産大臣、環境大臣
	天皇・皇后両陛下 お手植え・お手播き	御先導：(公社)国土緑化推進機構理事長 長野県知事 介添え：みどりの少年団
	代表者記念植樹	記念植樹代表者
	記念式典アトラクション (ひと ゆめ みどり 信濃から未来へつなく 森づくり)	
	大会宣言	(公社)国土緑化推進機構理事長
	リレーセレモニー	長野県知事、富山県知事 介添え：みどりの少年団
	閉会のことば	長野県議会議長
	天皇・皇后両陛下 御退席 御徒歩	御先導：長野県知事 お見送り：大会会長 (公社)国土緑化推進機構理事長
	エピローグ 11:50~	エピローグアトラクション (美しい ふるさとを 次世代へ)

開催概要

開催意義

長野県では、平成16年(2004年)に公布した「長野県ふるさとの森林づくり条例」に基づき「長野県森林づくり指針」を定め、さらに、「長野県総合5か年計画2013～しあわせ信州創造プラン～」を策定し、地域を支え、持続的に発展する林業・木材産業の構築を目指しています。

このような中で開催する第67回全国植樹祭は、豊かな自然、美しい景観を有し、私たちに様々な恵みを与えてくれる長野県の森林を、県民が協働して守り育て、有効活用し、未来に引き継いでいく姿を全国に発信する機会とします。

開催理念

私たち長野県民は、森林を守り育ててきた先人の努力に思いを馳せ、県民参加と協働による「確かな暮らしが営まれる美しい信州^{※1}」を実現し、森林を次の世代に確実に引き継ぐとともに、長野県から始まる「森林を活かし 森林に生かされる 私たちの豊かな暮らし^{※2}」を全国の皆様にお伝えします。そのために、以下の3つの理念により第67回全国植樹祭を開催し、国土緑化運動を推進します。

※1 長野県総合5か年計画2013～しあわせ信州創造プラン～ 基本目標

※2 長野県森林づくり指針 基本目標

(1) 植えて・育て・利用する「森林・林業のサイクル」を、取り戻そう

持続的に発展する「森林を活かす力強い林業・木材産業づくり」を進め、あたりまえに木が使われる社会を実現し、長野県が林業県としても飛躍する姿を発信します。

(2) 森林や身近な緑の恩恵を、もう一度見つめ直そう

森林や身近な緑が、かけがえのない存在であることを改めて見つめ直し、貴重な財産として守り育てることの重要性を発信します。

(3) 森林と共に生きる人々の思いを、伝えよう

森林・林業と県内各地の文化を育んできた森林に携わる人々の活躍を発信するとともに、美しい信州の文化を継承します。

開催日・主催・会場

開催日 平成28年6月5日(日)

主催 公益社団法人国土緑化推進機構・長野県

会場 式典会場/長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブ

植樹会場/上田市 ▶ 自然運動公園

伊那市 ▶ 鳩吹公園

松本市 ▶ アルプス公園

長野市 ▶ 茶臼山自然植物園

県民植樹会場/南木曾町 ▶ 漆畑地区 (5月21日(土))

飯山市 ▶ 菜の花公園周辺 (5月21日(土))

松川町 ▶ およりの森 (5月22日(日))

池田町 ▶ あづみ野池田クラフトパーク (5月27日(金))

小海町 ▶ 小海町総合グラウンド (5月28日(土))

岡谷市 ▶ 湊地区(本沢川上流) (5月28日(土))

東日本大震災復興支援

第67回全国植樹祭の開催を通じて、東日本大震災復興支援を行います。

①海岸防災林の再生支援

東日本大震災の津波で流出した海岸防災林の早期再生を支援するために、東北3県(岩手県、宮城県、福島県)に対し、緑化資材等を贈呈します。

②東日本大震災被災地へのエノキリレー

東日本大震災被災地復興支援のため、皇居内のエノキから採取した種から育てた苗木(「平成26年度ふるさとの森づくり県民の集い」(長野県植樹祭)で播種)を、第67回全国植樹祭で、平成29年の第68回全国植樹祭開催県の富山県にリレーします。

リレーされたエノキの苗木は、富山県で1年間育成された後、平成30年の第69回全国植樹祭の開催県の福島県で植樹される予定です。



「平成26年度ふるさとの森づくり県民の集い」で参加者が播種

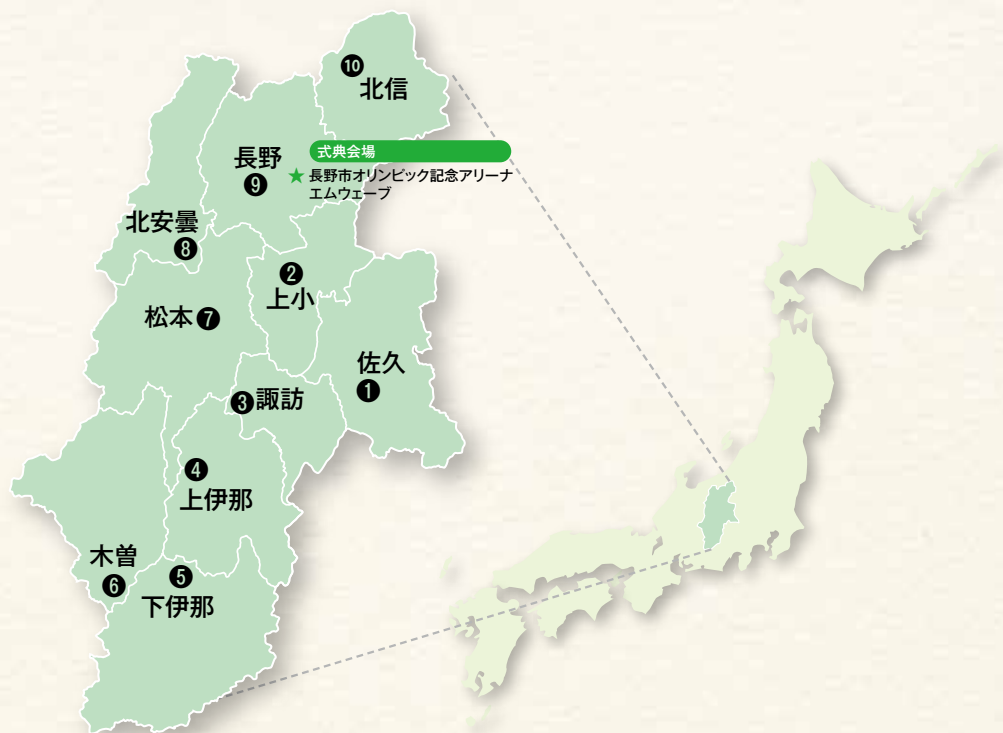


東日本大震災復興支援用に播種したエノキ



長野県林業総合センターで育苗

開催会場



式典会場



長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブ

長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブは、平成10年(1998年)に開催された長野冬季オリンピックのスピードスケート会場として、また、引き続き開催された長野パラリンピック冬季競技大会の開閉会式場とアイススレッジ競技会場として、各国から多くのアスリートとお客様をお迎えしました。冬季は日本を代表する国際スケート連盟公認のスケートリンクとして世界大会や全日本クラスの競技会が開催されるとともに、春から秋はコンサートや各種イベントに利用される県内最大の多目的アリーナです。



長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブは、長野県産カラマツ集成材^{*}による、世界最大級の木製つり屋根構造を持つ独創的な構造物として知られています。使用された集成材は約2,800m³、一般住宅で利用される木材量に換算すると約112棟分に相当します。



^{*}集成材とは、カラマツなどの引板(ラミナ)を集成接着した木質材料で、木の良さを生かしながら自由な形状や長さに行えることから、住宅部材から大型木造建築まで、品質の安定した木質材料として幅広く利用されています。

植樹会場

	地区	会場名	招待者記念植樹会場	県民植樹会場
①	佐久	小海町 小海町総合グラウンド	—	△
②	上小	上田市 自然運動公園	●	●
③	諏訪	岡谷市 湊地区(本沢川上流)	—	△
④	上伊那	伊那市 鳩吹公園	—	●
⑤	下伊那	松川町 およりの森	—	△
⑥	木曾	南木曾町 漆畑地区	—	△
⑦	松本	松本市 アルプス公園	●	●
⑧	北安曇	池田町 あづみ野池田クラフトパーク	—	△
⑨	長野	長野市 茶臼山自然植物園	●	●
⑩	北信	飯山市 菜の花公園周辺	—	△
合計			3箇所	10箇所

● 植樹祭当日 △ 当日以外

式典会場・植樹会場の双方向ライブ中継

多くの皆さんに体感いただけるよう、式典会場と植樹会場を実況中継映像で結び、長野県全域をステージとした広域開催型の大会を実現します。

式典会場 エムウェーブ



全国植樹祭当日に植樹する会場

上田市 自然運動公園

伊那市 鳩吹公園

松本市 アルプス公園

長野市 茶臼山自然植物園



植樹行事

お手植え

- 天皇・皇后両陛下のお手植えは、お手植え箱へそれぞれ3本の植樹とし、「森」の字をかたどります。
- お手植えされた記念樹は、第67回全国植樹祭の開催を記念し、豊かな森林づくりのシンボルとして大切に育てていきます。

天皇陛下お手植え樹種(3種)



ヒノキ

長野県の林業を支える主要樹種

- 木曽ヒノキは、日本三大美林のひとつといわれ、木曽五木(ヒノキ、サワラ、ネズコ、アスナロ、コウヤマキ)のひとつです。
- 木目が通り緻密で、耐久性に優れ、古くから城や寺社等の重要建築物に使われています。



ウラジロモミ

長野県の歴史・文化と関わりが深い樹種

- 約1,200年の歴史を持つ諏訪大社の「御柱祭」の御神木(直径60cmを超える大径木)として使用されています。
- 県内の山地に分布する天然林の代表種で、樹形がきれい庭園木等にも使われています。



コウヤマキ

長野県を象徴する樹種

- 樹形が美しく世界三大美樹になっています。
- 木曽でも非常に優れた木材として古くから知られ、江戸時代には伐採を禁じ保護され、木曽五木のひとつになっています。
- 材質は良く、腐りにくい独特の長所があり、風呂桶、水桶や流場、船などに最適材とされています。

皇后陛下お手植え樹種(3種)



シナノキ

長野県の歴史と関わりが深い樹種

- 長野県の古名である信濃は、古くは「科野」でしたが、シナノキを多く産出したからだともいわれています。
- 全県の山地帯に分布する落葉広葉樹で、6月頃淡黄色の花を咲かせ、強く甘いにおりが楽しめます。樹皮はしなやかで繊維が強いため、衣服や船のロープに使われています。



タカトオコヒガンザクラ

長野県を象徴する樹種

- 伊那市高遠城址公園に植栽されたコシノヒガンの一型で、大木になり、赤みが強い花色が特徴です。
- 地元では、タカトオコヒガンザクラと呼ばれ、高遠城址公園は日本さくらの会の「さくら名所百選」に選ばれています。



ミズメ

長野県の伝統工芸と関わりが深い樹種

- 県内の山地帯に分布する落葉広葉樹で、別名「梓」と呼ばれ、「梓川」の由来となったともいわれています。
- 材が重くて硬いため、古くから広くいろいろな木工芸に使用され、ミズメなどを使った拭き漆塗りの家具が「松本家具」として、昭和51年に伝統的工芸品に指定されています。

お手播き

- 天皇・皇后両陛下のお手播きは、お手播き箱へそれぞれ2種類の播種とします。
- お手播きされた種子は、長野県が管理、育成して苗木に仕立てた後、県内の公共施設などに「記念樹」として配布します。

天皇陛下お手播き樹種(2種)



カラマツ

長野県の林業を支える主要樹種

- 寒冷地である本県に適し成長が速いことなどから、全国に先駆けて、戦後大規模な植林が行われ、本県の人工林面積の半分以上を占めています。
- 材が堅く丈夫なため、本県では集成材に加工し活用しています。式典会場であるエムウェーブをはじめ、高性能な建築用材として利用されています。



クリ

県内の里山を代表する樹種

- 県内の里山に分布する落葉広葉樹で、特に小布施町は、クリの名産地です。
- 小布施の栗は600年の歴史をもち、江戸時代には、最上級のものが幕府へ献上品として納められていました。
- 材は堅くて腐りにくい特徴から、古くは縄文時代から建物の柱などに使われ、現在も土台や家具等に使われています。

皇后陛下お手播き樹種(2種)



シラカバ

長野県の木に指定(昭和41年)

- 白い樹皮が美しく、高原のシンボルとして愛される落葉高木です。
- 木目が白く美しいので、家具材や屋内の内装に使われるほか、樹液は人工甘味料キシリトールの原料にもなります。



ナナカマド

県民に広く親しまれている樹種

- 平野部から高標高地まで県内に広く分布し、街路樹や庭園木として県民に親しまれています。
- 初夏には白い花を、秋には赤い実と紅葉が美しいなど四季折々の季節感がある樹種です。
- 秋につけた房になった赤い実は、冬季の鳥たちの大切な食料となり、多くの鳥の食餌木として知られています。

代表者記念植樹

- 代表者は、天皇・皇后両陛下の2本目のお手植えと同時に記念植樹を行います。
- 場所は、式典会場内で行うものとします。
- 代表者記念植樹の樹種は、天皇・皇后両陛下のお手植えと同じ樹種とします。

植樹行事

招待者記念植樹

- 招待者は、上田市自然運動公園、松本市アルプス公園、長野市茶臼山自然植物園で1人1本以上の記念植樹を行います。
- 植樹行事は、「苗木のスクールステイ^{※1}」「苗木のホームステイ^{※2}」で、みどりの少年団など小・中学生を中心とした多くの県民の手によって育てられた苗木を使用するとともに、県内の苗木生産者が生産する優良苗木も使用します。
- 植栽樹種は、会場の特性を考慮して、本県の気候風土に適した樹種、県民に親しみがあり四季折々の花や紅葉も楽しめる季節感のある樹種とします。

- ※1 苗木のスクールステイ：全国植樹祭等に使用する苗木を、県内のみどりの少年団、小・中・高等学校、短期大学、大学、専門学校等で、どんぐりや幼苗から育てていただく取組。
- ※2 苗木のホームステイ：全国植樹祭等に使用する苗木を企業、団体、ご家庭で、どんぐりや苗木から育てていただく取組。

植樹会場の将来イメージ



上田市自然運動公園 (5種)

オオヤマザクラ、クヌギ、コナラ、ヤマモミジ、カラマツ

松本市アルプス公園 (6種)

エノキ、ケヤキ、ミツデカエデ、ヤエザクラ(関山)、イタヤカエデ、オオモミジ

長野市茶臼山自然植物園 (14種)

エゴノキ、ナナカマド、ニシキギ、マユミ、ヤマボウシ、オオシマザクラ、オオヤマザクラ、ヤマザクラ、イロハモミジ、オオモミジ、イタヤカエデ、ウリカエデ、ウリハダカエデ、コハウチワカエデ

県民植樹

- 式典参加者以外の方も記念植樹に参加していただくために、県下10地区に県民植樹会場を設け、式典当日、もしくはそれ以前の日に記念植樹を行います。

県民植樹会場一覧

市町村	会場	開催日	面積	主な樹種
小海町	小海町総合グラウンド	5月28日(土)	1.0ha	レンゲツツジ オオヤマザクラ他
上田市	自然運動公園	6月5日(日)	1.3ha	オオヤマザクラ クヌギ他
岡谷市	湊地区(本沢川上流)	5月28日(土)	0.5ha	コナラ クヌギ モミジ他
伊那市	鳩吹公園	6月5日(日)	0.5ha	ナラ類 ヤマザクラ他
松川町	およりの森	5月22日(日)	1.0ha	シラカバ クヌギ他
南木曽町	漆畑地区	5月21日(土)	0.9ha	ミツバツツジ カエデ類他
松本市	アルプス公園	6月5日(日)	1.0ha	コナラ クヌギ他
池田町	あづみ野池田クラフトパーク	5月27日(金)	0.5ha	オオヤマザクラ クヌギ他
長野市	茶臼山自然植物園	6月5日(日)	1.2ha	サクラ モミジ ヤマボウシ他
飯山市	菜の花公園周辺	5月21日(土)	2.0ha	サクラ ツバキ他

式典紹介

プロローグ

〈ようこそ信州へ〉

全国からの招待者を、心から歓迎し、長野県の魅力を紹介します。

「木と森の文化」に係わりのある山車等が県内各地から集まり、広い会場を活かしてダイナミックに練り歩き、県民の力と心がひとつになる様を表現します。



御神木になる巨木が眠る深い森



「木と森の文化」に係わりのある祭り（御柱祭）



式典紹介

記念式典

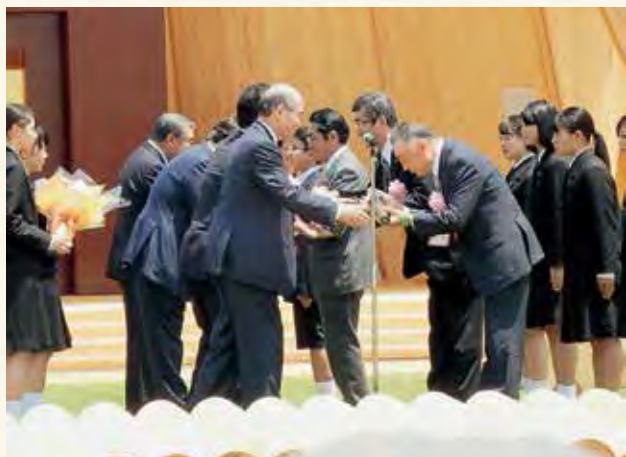
天皇・皇后両陛下によるお手植え・お手播き、三旗掲揚、国歌斉唱、緑化功労者等の各種表彰、大会宣言、リレーセレモニー等を行います。



お手植え



お手播き



各種表彰



苗木の贈呈

記念式典アトラクション

ひと ゆめ みどり

信濃から 未来へつなぐ 森づくり

これまでの人間と森林の係わりを見つめ直し、さらに未来へ向け「森」を守り育てる決意を表現します。

エピローグ

〈美しい ふるさとを 次世代へ〉

森づくりへの思いを表現するとともに、美しいふるさとが将来も継承されることを願いながら「ふるさと」を大合唱します。

健康長寿県である長野県。元気なお年寄りから子どもまでが一緒になって未来へつなぐ森づくりの思いをメッセージ・書道等で表現します。フィナーレは、各植樹会場を中継で結び式典会場と一緒に「ふるさと」を大合唱します。



宇宙から見た緑の“ふるさと地球”



ふるさとへの思い

創作人形 高橋まゆみ

式典紹介

出演者紹介

出演内容	人数	出演者(団体)名
式典総合司会	1名	野村 恵美
ナビゲーター	2名	祖父役：上條 恒彦 孫 役：為永 幸音
手話通訳・要約筆記	7名	長野県登録手話通訳者・要約筆者
式典アシスタント	16名	長野清泉女学院中学・高等学校
式典音楽隊	260名	長野県警察音楽隊
		長野吉田高等学校
		長野東高等学校
		公益社団法人才能教育研究会 スズキ・メソード
		長野コカリナ合奏団
介添え・三旗掲揚・苗木の贈呈	86名	みどりの少年団 ●西条小学校みどりの少年団(長野市) ●永明小学校みどりの少年団(茅野市) ●八幡小学校みどりの少年団(千曲市) ●東小学校みどりの少年団(千曲市) ●川上第一小学校みどりの少年団(川上村) ●坂城小学校みどりの少年団(坂城町) ●小川小学校みどりの少年団(小川村) ●科野小学校みどりの少年団(中野市) ●上山田小学校みどりの少年団(千曲市) ●戸倉小学校みどりの少年団(千曲市) ●更級小学校みどりの少年団(千曲市) ●麻績小学校みどりの少年団(麻績村) ●信濃小中学校みどりの少年団(信濃町)
		日本ボーイスカウト長野県連盟
		一般社団法人ガールスカウト長野県連盟
プロローグアトラクション エピローグアトラクション	320名	下諏訪町木遣保存会
		ながの祇園祭屋台運行実行委員会(権堂勢獅子)
		信州御代田 龍の舞保存会 / 龍神太鼓保存会 鼓響
		東野大獅子保存会
		松本蟻ヶ崎高等学校
学校法人いづな学園 こどもの森幼稚園		

感謝状・記念切手 贈呈

大会テーマ

全国から応募があった1,226点の作品の中から、大会テーマ審査会において選定された2作品を組み合わせ、決定しました。

ひと ゆめ みどり
信濃から 未来へつなぐ 森づくり

《作者》 いけなが かずひろ
池永 一広 さん（大阪府高槻市）
ひょうどう きとみ
兵藤 怜美 さん（千葉県茂原市）

《決定理由》 短く、すっきりとした、今までにない独特な表現で、子供から大人まで心に残りやすい、人と緑を夢でつなぐ作品「ひと ゆめ みどり」と、長野県から未来に向けた森林づくりを進めるとい開催方針に沿った方向性を明確に表現し、五・七・五のリズムが口にしやすい作品「信濃から 未来へつなぐ 森づくり」を組み合わせました。

シンボルマーク

全国から応募があった666点の作品の中から、シンボルマーク審査会において決定しました。

《作者》 もり ひでお
盛 秀雄さん（青森県青森市）
《制作意図》 長野県の「N」の文字をモチーフに、「信濃の山々」と、そこに生息する県の鳥「ライチョウ」と「森の文字」を組み合わせせて表現しました。「信濃から 未来へつなぐ 森づくり」を発信する県民の姿をイメージし、シンボルマーク化しました。



大会ポスター原画

長野県内の小学校・中学校・高等学校及び特別支援学校の児童生徒から応募があった493点の作品の中から、ポスター原画審査会で選定しました。

《作者》 なかむら みひろ
中村 実紘さん（応募当時 長野県高遠高等学校2年）
《画題》 「私たちの手で守る未来」
《制作意図》 私たちの住んでいる地球が、たくさんの緑で溢れて動物たちも住みやすい世界を人の手で作っていききたいと思い描きました。



ふるさと切手「国土緑化（長野県）」

「第67回全国植樹祭」のお手植え・お手播きの樹種のほか、開催地である長野県にちなんだ木や花を採用しています。

この記念切手は、平成28年6月3日（金）に全国で一斉に発売されました。



平成28年用国土緑化運動・育樹運動ポスター原画コンクール

入賞者

小学校の部

特選

文部科学大臣賞・国土緑化推進機構会長賞

平墳 旺介 岐阜県垂井町立表佐小学校 2年
(育樹運動ポスターとして採用)

農林水産大臣賞

福田 鎌史郎 熊本県玉名市立豊水小学校 1年

準特選

林野庁長官賞

関西 銀一朗 神奈川県伊勢原市立大山小学校 3年

庄司 優佳 静岡県沼津市立原小学校 3年

毛利 有寿 香川県高松市立一宮小学校 4年

入選

国土緑化推進機構理事長賞

加藤 友悠 岩手県盛岡市立城北小学校 1年

栄田 七里美 宮城県塩竈市立浦戸小学校 3年

推野 姫子 宮城県石巻市立前谷地小学校 6年

村上 紗良 栃木県矢板市立片岡小学校 4年

竹原 凜 千葉県佐倉市立間野台小学校 1年

齋藤 菜々子 東京都光塩女子学院初等科 2年

佐藤 響 静岡県沼津市立第四小学校 4年

景山 歩夢 静岡県川根本町立中川根第一小学校 5年

森坂 愛夢 静岡県川根本町立中川根第一小学校 5年

工藤 悠良 愛知県名古屋市長上名古屋小学校 5年

古本 マリナ ノア 京都府亀岡市立東別院小学校 3年

市原 颯 京都府亀岡市立城西小学校 1年

菊地 里美 大阪府吹田市立桃山台小学校 3年

井上 采音 兵庫県神戸市立本山第一小学校 2年

小林 雅姫 岡山県新見市立本郷小学校 2年

石川 京奈 山口県山陽小野田市立須恵小学校 4年

松井 優幸 長崎県佐世保市立広田小学校 1年

鈴木 千遥 宮崎県日南市立北郷小学校 6年

中学校の部

特選

文部科学大臣賞

中国 瑚白 広島県廿日市市立七尾中学校 3年

農林水産大臣賞・国土緑化推進機構会長賞

山口 怜依哉 長崎県長崎市立高島中学校 3年
(緑化運動ポスターとして採用)

準特選

林野庁長官賞

豊永 明香里 神奈川県藤沢市立藤ヶ岡中学校 3年

谷口 優太 島根県出雲市立浜山中学校 3年

田中 愛美 宮崎県立明星視覚支援学校 3年

入選

国土緑化推進機構理事長賞

黒澤 晃太郎 北海道千歳市立東千歳中学校 2年

小野寺 千紵 宮城県栗原市立金成中学校 3年

高橋 ひより 秋田県横手市立横手北中学校 1年

齋藤 真央 茨城県筑西市立下館西中学校 1年

南 侑那 千葉県茂原市立茂原中学校 3年

安江 望那恵 岐阜県飛騨市立古川中学校 2年

大場 萌音 静岡県浜松市立八幡中学校 3年

岸畑 菜摘 静岡県三島市立中郷西中学校 3年

新見 伊紀 大阪府大阪市立城陽中学校 2年

森下 友梨香 和歌山県海南市立下津第二中学校 2年

尾形 凜花 徳島県藍住町立藍住中学校 1年

中津 香夏美 宮崎県宮崎市立田野中学校 3年

高等学校の部

特選

文部科学大臣賞

吉田 安那 新潟県新潟第一高等学校 1年

農林水産大臣賞

谷口 良太 島根県立出雲高等学校 3年

準特選

林野庁長官賞

山下 蓮佳 青森県八戸工業大学第二高等学校 2年

向村 衣千華 鳥取県米子永島学園米子松蔭高等学校 3年

圖師 未紀 宮崎県立佐土原高等学校 2年

入選

国土緑化推進機構理事長賞

大内 惟裳 茨城県立笠間高等学校 2年

大野 由恵 茨城県立藤代高等学校 2年

戸澤 由起乃 神奈川県立弥栄高等学校 1年

山根 翔 島根県立大社高等学校 2年

遠藤 諒亮 島根県立松江北高等学校 2年

初田 莉奈 長崎県立上五島高等学校 2年

特選原画紹介

小学校の部

文部科学大臣賞・国土緑化推進機構会長賞



平埜 旺介
岐阜県垂井町立
表佐小学校 2年

画題「みどりがいっぱい」
みどりがいっぱいだときもちがいいからみどりがふえるといいなあともいいました。

農林水産大臣賞



福田 隼史郎
熊本県玉名市立
豊水小学校 1年

画題「みどりをたいせつに」
たくさんの大切な緑や木々を自分たちでまもっていこうという気持ちを込めて描きました。

中学校の部

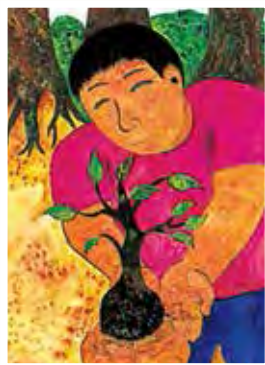
文部科学大臣賞



中国 瑚白
広島県廿日市市立
七尾中学校 3年

画題「象と子供」
象と人間の子供たちが植物を一生懸命育てている様子に、「動物と人間が協力して植物を育てていきたい。」という願いをこめました。

農林水産大臣賞・国土緑化推進機構会長賞



山口 怜依哉
長崎県長崎市立
高島中学校 3年

画題「大切に植えよう」
大切に受けつぎ、大切に植えて木を育てましょう。緑が豊かに育つように。

高等学校の部

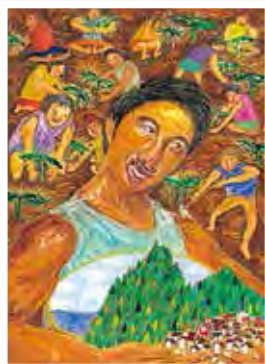
文部科学大臣賞



吉田 安那
新潟県新潟第一
高等学校 1年

画題「新たな仲間」
双葉を持った小人たちが空から舞い降りて、緑を増やしていこうとすることを表現した。

農林水産大臣賞



谷口 良太
島根県立
出雲高等学校 3年

画題「緑の防潮堤」
植林をして「緑の防潮堤」を築き未来の人達の命と生活を守りたい。

平成27年度緑化功労者

受賞者

農林水産大臣賞(感謝状)3名

宮城県	鈴木	健一
栃木県	鈴木	茂
愛知県	山本	恵一

国土緑化推進機構会長賞(感謝状)3名

岩手県	佐藤	崇
長野県	宇都宮	保
京都府	柏原	康夫

林野庁長官賞(感謝状)7名

北海道	加藤	茂
青森県	千葉	多兵衛
静岡県	古川	日出男
滋賀県	竹内	宗一
愛媛県	三瀬	逸雄
佐賀県	浦	茂
大分県	神川	建彦

国土緑化推進機構理事長賞(感謝状)7名

茨城県	瀬谷	和人
新潟県	村山	重保
山梨県	矢川	満
岐阜県	仲野	啓雄
兵庫県	大谷	敏行
岡山県	浪速	昭彦
徳島県	尾崎	君男

受賞者紹介

農林水産大臣賞



鈴木 健一 氏
宮城県

氏は17歳の頃から農業経営の傍ら、所有する8ヘクタールの山林経営を行い、平成7年からは地元生産農業協同組合の役員として健全な森林整備と地域林業の活性化に積極的に取り組んできた。さらに、平成18年から石巻地区森林組合の理事として、森林施業の集約化による間伐事業等の推進など地域の森林・林業の発展に尽力し、平成21年からの6年間は、代表理事組合長として、地域林業の舵取り役を担ってきた。

氏はこの間、長年の林業経営の経験から現状と対策を分析し、組合と所有者との森林施業管理委託を提唱し、森林所有者の負担の少ない再造林の推進のため、受託による立木伐採を行う際に、再造林や保育も併せて計画するセット施業の提案を行うなど、積極的な造林の推進による緑の保全に取り組んできた。また、緑化等には松くい虫被害跡地の復旧が重要であることを認識し、地元の住民等と協働する植樹活動や防除研修会の開催に取り

組み、森林組合の人員、苗木、植栽に必要な資材等を無償で提供するなど支援を行い、松林の再生や地域緑化活動に取り組んだ。

また、森林組合長として就任中に発生した東日本大震災に対して、氏がリーダーシップを取って緑化対策等に取り組み、震災からの迅速な復興に貢献するとともに、震災からの復興が進む環境に緑を再生することを目的に緑化木の提供を積極的に行い、地域の緑化に大きく貢献するとともに、震災被害者の心のケアにも役立っている。

以上のように、氏はこれまでに培った知識、経験を生かし、長年にわたり石巻地域の緑化の推進に活躍しており、平成23年は宮城県森林組合連合会代表理事会長に就任するなど、その活動の幅を全県に広げている。これまでの活動は、県内外の緑化・林業関係者及び地域住民から高い評価を得ており、その功績は極めて大きいものとなっている。



鈴木 茂 氏
栃木県

氏は、森林保全活動への意識が非常に高く、森林整備等に貢献したいとの思いから、会社勤務の傍ら森林ボランティア活動を始めた。

栃木県で森林ボランティア制度が始まった当初から、22年間にわたり森林ボランティア会員として森林保全活動を継続しているほか、NPO法人地球緑化センターの「山と緑の協力隊」として全国各地の森林保全活動にも携わっている。

県内外各地での森林保全活動に参加するのみならず、森林保全と地域おこしを結びつけたいとの考えから、栃木県芳賀郡茂木町に【『かぐや姫』なごみの里竹原】を立ち上げる。

地域住民と積極的にコミュニケーションを図りながら、手つかずの荒廃竹林や森林の整備を行うとともに、整備した森林と地域資源を連携させたイベント等を開催し都

市住民と地域住民の交流促進を図り、地域おこしに大きく貢献している。

また、長年の森林整備や地域おこしの経験を活かした「人づくり」にも力を注いでおり、県内外から来訪するボランティアの指導受け入れや、積み重ねた経験や知識を伝えるための講師活動にも力を入れている。

バイタリティー溢れる活動と積み重ねた経験等から、森林保全活動の指導や講師など、多方面からの協力要請は後を絶たないが、新たに、森林保全と稀少動物保護の連携という新たな分野での取組を始めるなど、益々活動を活発化させているところである。

このような、森林保全と地域おこし・稀少動物保護等を連携させる氏の活動は、新たな森林整備の方向性を示す上で社会に大きく貢献するものである。



山本 恵一 氏
愛知県

氏は、昭和40年代後半から高付加価値林業を目指し、優良材生産をするための枝打ち、間伐等の育林技術の向上と実践に尽力し、昭和57年には愛知県指導林家として認定された。

昭和51年には地域の林家による林業研究グループ「額田林業クラブ」の設立に携わり、平成15年から会長として、クラブ員の技術・知識の習得向上に努め、優良柱材生産を目指した「一億円林業」の推進と普及を図ってきた。

自身も柱材の試し挽きや格付けを行い、その材を地元のみつりで展示、地元住宅建築業者へ販売するなど地元産材の普及啓発に努め、クラブ員の意欲向上に繋がれた。

また、行政へ木材利用を働きかけ、平成25年には地元の幼稚園舎再建時にクラブ員と協力し、地元材の活用に取り組んだ。また、平成27年には未利用材を活用する「額

田木の駅プロジェクト」の設立の際には、中心的役割を担い、地域林業の振興に大きく寄与された。

さらに、愛知県森林審議会委員や愛知県森林協会理事はじめ6団体の要職を務め、県内の林業研究グループや林業後継者の育成指導に積極的に取り組んでいる。

一方、地元の小中学校等で間伐などの森林・林業体験学習の講師を務め、額田林業クラブ員と実技指導を行うとともに、都市部の人たちにも森林について学び、体験してもらう「おと川リバーヘッド大作戦」の会長等を務め、森林の機能や手入れの必要性を広く周知するなど青少年の森林環境教育にも取り組んでいる。

このように、氏の地道で幅広い取り組みは、森林整備や育林活動の推進、地域林業の発展、林業後継者の育成に密接につながり、その功績は誠に多大である。

平成27年度緑化功労者

国土緑化推進機構会長賞



佐藤 崇 氏
岩手県

氏は、約100haの所有山林において、植林から下刈り、間伐等の森林施業を自ら計画的に行い、地域の森林経営者の模範となっているほか、林業振興に寄与することを目的とした一般社団法人岩手県緑友会の副会長や、同会の宮古・岩泉支部長として重責を担い、林業の振興と地域の活性化に尽力している。

平成2年からは、地元の釜津田自然愛護少年団の育成・指導に携わり、釜津田財産区有林を活用して、野外観察・体験学習の場となる「学びの森」を整備したほか、自発的にネイチャーゲームの初級指導員の資格を取得して、少年団への指導に心を砕くなど、次の時代を担う子供達に、森林・林業に関心を持ってもらうため、情熱を持って指導を続けてきた。

その長きにわたる取組の成果が評価され、平成25年度には「緑の少年団育成功労賞」を受賞するとともに、深く関わってきた釜津田自然愛護少年団が、同時に、全国緑の少年団活動発表大会において「みどりの奨励賞」を

受賞するなど、功績が認められている。

一方、これまで家族経営で営んできた農林業の林業部門を平成26年に法人化し、森林経営の近代化に努めるとともに、山村地域の雇用創出や林業後継者の育成にも力を注いでいる。

こうした父の背中を見て育った3人の御子息も、県内の高校を卒業後、全員が地元の農林業に従事する傍ら、少年団の育成に積極的に参画し、少年団員に緑を愛する大切さを伝えており、氏の志は、その家族や地域の子供達にしっかりと受け継がれている。

以上のように、氏は20年以上の長きにわたり、森林整備の実践、山村地域の雇用創出、緑化活動を通じた少年団の育成等に尽力してきており、岩手県の林業振興や緑化推進に多大な貢献をしている。



宇都宮 保 氏
長野県

氏は昭和31年に長野トヨベツ株式会社に入社。昭和57年9月から代表取締役役に就任し、現在に至る。

高度経済成長期において、自動車の普及に伴い環境保全に力を入れた街づくりに貢献するため、昭和42年に建設された長野県庁の敷地の緑化等のため、苗木の寄贈を始めた。

昭和51年から「長野トヨベツふれあいグリーンキャンペーン」を開始し、現在まで40年間、長野県へ苗木の贈呈を継続的に実施しており、その中で氏は指導的役割を果たしている。

当初は緑の少ない市街地の緑化を目的に苗木の寄付を行っていたが、近年では県民が多数参加する長野県の植樹祭などに苗木を提供するとともに、社員を積極的に参加させることで社員の緑化意識の醸成に努めている。

氏自らも先頭に立ち、社員やその家族とともに地域住民と交流する中で植樹を行い、長野県内各地域の緑化を推進している。贈呈された苗木の数は平成27年度末までに約13,600本となり、緑あふれる空間と豊かな森林づくりに貢献している。

りに貢献している。

また氏は、昭和61年から現在までの約30年間、社内募金を積極的に展開し緑の大切さを社員に伝えるとともに、公益財団法人長野県緑の基金に寄付し、緑化推進に大きく貢献している。この取組について、平成17年度には長野県知事から感謝状が贈呈された。

長野県では、企業と市町村や地域をつなぎ、森林整備を行う森林の里親促進事業を実施している。氏の呼びかけにより、平成21年12月に長野県白馬村において、村と森林の里親契約を締結した。社内募金と社員のボランティアにより、村民と社員が交流を深める森林「みんなの森」(面積24.4ha)を設置し、森林保全活動を継続して行っている。

このように、氏のこれまでの取組は、長野県内の緑化推進に大きく貢献しており、その功績は誠に多大なものである。



柏原 康夫 氏
京都府

氏は長年京都府内での森づくり活動に尽力し、メディアを活用し、森づくり活動への呼びかけを行ってきた。相談役を務める京都銀行でも京都府産木材を使った住宅のローン金利優遇制度の創設、店舗での木材利用、自社グラウンドでの植樹等を展開。行員をはじめ、自らも間伐や枝打ちなどの森づくり活動に参加するなど積極的な活動を推進してきた。

平成18年には、我が国初のモデルフォレスト運動を展開する公益社団法人京都モデルフォレスト協会の初代理事長に就任し、先頭に立って、自ら大阪、京都等の企業に森づくりへの参画を働きかける。

その結果、企業・ボランティア団体・大学などの連携に

よる森づくり協定が数多く締結され、現在、京都府内で数多くの団体が地域と一体となって活動を行っている。

また、氏が理事長を務める京都モデルフォレスト協会は平成20年3月に国際モデルフォレストネットワークに加入し、京都の森づくり活動を世界にアピールするとともに、平成20年4月には京都府とカナダ・ケベック州の森林環境保全に係る交流提携に尽力し、緑を通じた国際交流をスタートさせている。

氏はわが国の森づくり運動において全く新しい形での活動を定着・発展させることに大きく貢献している。

平成27年度全日本学校関係緑化コンクール

学校林等活動の部

小学校



農林水産大臣賞・日本放送協会会長賞

栃木県 真岡市立大内東小学校

当校は、栃木県南東部の"木綿とSLのまち"真岡市にあり、東には木材の生産が盛んな八溝山系が広がり、西には栃木県を代表する清流・鬼怒川が流れる自然豊かな環境にある。

明治41年の開校以来、児童・職員・保護者・地域住民が協力して学校緑化に努めてきたが、平成6年に学校林施設を整備し、児童たちが自然と関わりながら学習活動を行える場が整ったことから、学校林を活用した学校教育が本格的に展開されたところである。

当校の活動の目標に【育てよう みんなの緑と豊かな心】というテーマを設け、更に具体的な展開の指標として、「育てる」・「守る」・「学ぶ」・「楽しむ」・「ふれ合う」の5本の柱を設定し、学校の様々な授業と学校林活動を関連させ、心豊かな児童の育成に努めている。

「育てる」では学校林内での植樹体験、「守る」では野鳥の巣箱設置や全児童による学校林清掃、「学ぶ」では学校林内で観察した動植物

の研究や落ち葉や木の実を活用した工作、「楽しむ」では春・夏・秋・冬の様々な学校林の風景

中でのネイチャーゲーム、「ふれ合う」では音読会や全学年での持久走大会など、様々な授業と連携しながら多岐にわたる学校林活動を展開し、自然の大切さについて学んでいるところである。

この学校林活動(管理や授業)は、地域住民の方々の協力も得ながら進めており、開かれた学校づくりにも大きく貢献するとともに、「地域の宝」としても親しまれている。



国土緑化推進機構会長賞

秋田県 北秋田市立鷹巣南小学校
茨城県 大子町立生瀬小学校
静岡県 浜松市立金指小学校
岡山県 西粟倉村立西粟倉小学校
鹿児島県 曾於市立恒吉小学校



国土緑化推進機構理事長賞

岩手県 宮古市立山口小学校
福島県 会津若松市立湊小学校
山梨県 山梨市立三富小学校
京都府 綾部市立東八田小学校
広島県 尾道市立吉和小学校

中学校



農林水産大臣賞

長野県 木曾町立三岳中学校

当校が所在する木曾地域は、全国有数のヒノキの産地であり、林業・木材産業が盛んな地域である。

当校の取組は、昭和53年に村有林の一部において、地域住民とともに森林整備を行ったことに始まり、37年間活動が続いている。

昭和61年に学校創立40周年記念事業として「三岳中学校みどりの少年団」を結団し、森林整備は少年団活動の年間行事に位置づけられている。

平成3年には、学校林が整備され、ヒノキ6,000本を植樹し、以来、下刈り、枝打ち、除伐等、毎年全学年の生徒が森林整備活動を行っている。

技術指導は、同中学校の卒業生を含む地元の林業関係者等が毎年指導を行い、地域の連携が図られている。

また、森林整備の学習だけにとどまらず、作業を通して自然への興味・関心を高め、地域の自然や文化に対する愛着を高める機会にもなっている。

この活動を通して林業に興味を持った生徒も多くおり、木曾地域の林業の担い手育成にも貢献している。



平成27年度全日本学校関係緑化コンクール

高等学校



農林水産大臣賞

静岡県 静岡県立磐田農業高等学校

本校は、校訓「高品性(品性を高うして)、重労働(労働を重んずる)」のもと、広い教養と農業の知識・技術及び技能を身に付け、地域や産業社会の発展に貢献できる心豊かで人間性あふれる人材を育成することを目標に教育を行っている。学校林については、かつては植林、下草刈り、間伐などの育林作業を中心とした山林管理実習の場として、山林育成や管理技術を習得させるとともに精神や肉体の鍛練の意味合いで利用されてきた。現在は、森林の多面的な役割・機能を活用して森林教育、環境教育、人間教育のフィールドとして活用している。

具体的には、1年生を対象とした宿泊研修で山林管理体験や自然観察などを行い、自然環境保全の重要性を学ぶ場としている。2年・3年生は、山林管理体験や自然観察に加え、間伐材の有効活用として木材の加工実習を行っている。

また、一部の体験学習に、生徒だけでなく保護者にも参加してもらうことで、本校の教育について理解を深めてもらっている。生徒と保

護者が一緒に活動することで林業の大変さや重要性を学ぶだけでなく、活動を通じコミュニケーション能力向上の一助にもなっている。



このように学校林は、生徒が自然や森林を体験的に理解し、水源涵養や環境保全への意識を高め、また仲間同士の協調の精神、思いやりの心、郷土愛そして母校愛を養う大きな意義を持っている。

学校環境緑化の部

小学校



文部科学大臣賞・日本放送協会会長賞

熊本県 熊本市立西原小学校

本校は昭和42年に創立し、昨年度創立50周年を迎えた。創立当時、校舎は完成したものの、1本の樹木もなく、運動場も荒れていた。子どもたちが運動場で遊ぶと手足だけでなく顔まで埃まみれになったそうだ。そこで、職員による花壇作り、地域住民による樹木の植栽などを通して、本校の花づくり、緑づくり、学校づくりがスタートした。

「学校を美しくしたい。」「子どもたちの心も豊かにしたい。」という思いが伝統となり、学校と地域が一体となった継続的な学校緑化活動となった。

その後、平成24年度からは「わくわく・いきいき・ぐんぐん学ぼう！命をつなぐ、西原まごころプロジェクト」を掲げ、校訓である「誠実 まごころ」の育成に取り組んでいる。

さらに、平成26年度からは「緑に親しむ」「命をつなぐ」「地域に発信する」をテーマに、1人1鉢・学校園活動・まごころ種まき・緑のカー

テン作り・命のラリー等、花いっぱい活動を実践している。特に、毎朝の活動や毎月のグリーンタイムでは、

緑化委員会を中心に草花の世話をするだけでなく、種から花を育てたり、樹木ウォークラリーを行ったりしながら、命の大切さを学んでいる。

これら全ての活動は、地域グリーンボランティアの方々の支援を受けており、緑化を通じた人と人とのふれあいの深まりにもつながっている。

今後も学校と地域が一体となった緑化活動を推進させることで、子どもたちの「誠実 まごころ」の育成に取り組む所存である。



国土緑化推進機構会長賞

栃木県 下野市立石橋小学校
埼玉県 杉戸町立杉戸第三小学校
愛知県 知多市立旭東小学校
山口県 阿武町立福賀小学校



国土緑化推進機構理事長賞

秋田県 三種町立浜口小学校
福島県 会津若松市立大戸小学校
茨城県 常陸太田市立幸久小学校
滋賀県 甲賀市立油日小学校
奈良県 香芝市立鎌田小学校
広島県 広島市立矢野西小学校
鹿児島県 日置市立住吉小学校

中学校



文部科学大臣賞

広島県 東広島市立高美が丘中学校

当校の所在する東広島市高美が丘地域は、広島県の中央部に位置する新興住宅地域である。当地域は、東広島ニュータウン・高屋堀・杵原の3地域から構成され、創立25年を迎える当校は、自然豊かな整備された団地内に設置されている。

当校では、学校教育目標である「知・徳・体の調和がとれ、思いやり、美化緑化活動の推進を教育活動の大きな柱とし、緑化推進委員会と美化緑化生徒委員会を組織し、学校外部とも連携しながら計画的に緑化活動を実施している。

総合的な学習の時間では、生徒自ら育てた草花苗を福祉施設をはじめとした公共施設に寄贈したり、地元森林組合から講師を招聘し、森林の働きについて学んだり、しいたけ植菌体験を通して里山の利

用について考えるなど地域社会と連携した活動を行っている。

また、全校生徒・教職員・PTA・森林組合・

地域の方々の協力により、美しく管理された学校庭園の樹木に親しむとともに、校内外の美化活動や緑化・育樹活動に積極的に取組み、美しい学校づくり・地域づくりを行っており、地域の方と交流をしながら里山保全活動にも取り組んでいる。

今後も多岐にわたった取組で、地域を巻き込み、環境緑化の機運を高める活動に取り組んでいきたい。



国土緑化推進機構会長賞

埼玉県 羽生市立南中学校
宮崎県 宮崎県立赤江まつばら支援学校
鹿児島県 肝付町立岸良中学校



国土緑化推進機構理事長賞

新潟県 長岡市立山本中学校
熊本県 熊本市立白川中学校
沖縄県 石垣市立富野小中学校

高等学校



文部科学大臣賞

青森県 青森県立柏木農業高等学校

本校は大正15年に創立され、昭和55年に現在の平川市に移転新築された。水稲とりんご栽培が盛んな津軽平野の南部に位置しており、近隣には、国指定名勝「盛美園(せいびえん)」をはじめ、各民家にも「つぼ」といわれる庭園や生垣が多数存在し、造園文化の浸透が見受けられる地域である。

校舎移転後、洋風庭園や日本庭園(大石武学流)が校内に造成され、昭和59年の創立60周年記念事業では、「柏農(はくのう)の森」づくり(植栽樹種45種類530本)、平成7年には「恵みの森」づくり(都道府県木36種類180本、青森県市町村木24種類120本植栽)を行い、緑化活動を推進してきた。現在、これらのフィールドは4学科の「農業と環境」や環境工学科の「造園技術」などの授業で生徒が有効活用している。

平成27年は、創立90周年記念事業の一環として、本校生徒並びに地域住民が四季を通じて樹木

や花の香りを楽しめる空間を創造するとともに、環境教育の充実を図るため、「日本一のハンカチツリー並木と国蝶オオムラサキの舞う香りの森づくり」を計画し、校舎北側草地1.2haに全校生徒400名でハンカチノキやエゾエノキ等の植樹を行った。

今後も、環境教育を本校の教育の柱として継続実施し、心身ともに健全な生徒の育成と、特色ある地域景観の創造を目指し邁進していく。



国土緑化推進機構会長賞

熊本県 熊本県立熊本支援学校
宮崎県 宮崎県立都城西高等学校

協力者の部



ノースロップ賞

【団体の部】

栃木県 上三川町立北小学校PTA
愛知県 豊田市立西広瀬小学校PTA
大阪府 五領地区学校芝生育成会

【個人の部】

徳島県 関 康昭
愛媛県 武村 義治

長野県みどりの功労者

特別功労者部門

下記3部門全てに対して顕著な活動、功績のあった者



小木曾 亮弐 (根羽村)

氏は、平成3年5月から平成23年4月までの20年間、根羽村長及び根羽村森林組合代表理事を務めた。平成3年には全国で初となる森林整備協定(上下流協定)を締結し、森林保全、水資源の確保を目的とし、根羽村を源流とする矢作川の下流域地域の団体、住民との協働による環境保全活動体制を確立した。また、総面積の92%が山林を占め、村の全世帯が5.5ヘクタール以上の山林を所有するという特性を生かし、林業が低迷を続ける中であっても「林業立村」を標榜し、村で木材加工場を整備するなど、林業の六次産業化を進め「トータル林業」の確立と同時に、住宅用材として「根羽スギ」「根羽ヒノキ」のブランド化を定着させ、新たな間伐材の有効活用により、適正な森林整備の推進に大きく貢献した。

みどりの伝承部門

森林や林業についての伝統や木と森の文化の伝承について、顕著な活動、功績のあった者

- 荒井 琢磨 (松本市)
- 稲邊 謙次郎 (伊那市)
- 特定非営利活動法人 八ヶ岳森林文化の会 (茅野市)
- 木曾山林高等学校同窓会 蘇門会 (木曾町)
- C.W.ニコル (信濃町)
- 島崎 洋路 (伊那市)
- 菅原 聰 (松本市)
- 高畑 八千代 (佐久市)
- 山下 一夫 (箕輪町)
- 山本 国弥・山本 友子 (小谷村)

みどりの活用部門

緑化を通じた環境を守り育てることについて、顕著な活動、功績のあった者

- 飯田市上郷野底山財産区 (飯田市)
- 内田 幸一 (長野市)
- 特定非営利活動法人 信州フォレストワーク (長野市)
- 特定非営利活動法人 戸隠森林植物園ボランティアの会 (長野市)
- 特定非営利活動法人 やまぼうし自然学校 (上田市)
- 北澤 秋司 (伊那市)
- 寿さと山くらぶ (松本市)
- 坂城小学校学有林運営委員会 (坂城町)
- 城山史跡の森倶楽部 (木曾町)
- 玉村 豊男 (東御市)

みどりの循環部門

林業において、顕著な活動、功績のあった者

- 赤津 安正 (栄村)
- 池上 達雄・池上 久二子 (木曾町)
- 泉山 茂之 (南箕輪村)
- 市川 正道 (佐久市)
- 神戸 直日 (長野市)
- 齋藤 敏 (長和町)
- 諏訪まつたけ生産振興会 (諏訪市)
- 長野森林資源利用事業協同組合 (長野市)
- 中野 安久 (松本市)
- 細川 忠國 (富士見町)
- 山岸 忍 (松本市)
- 山岸 久男 (須坂市)

大会宣言

大会宣言

第67回全国植樹祭は、長野市オリンピック記念アリーナ エムウェーブを式典会場、長野県内10カ所を植樹会場として開催され、「ひと ゆめ みどり 信濃から未来へつなぐ 森づくり」が大会テーマとして掲げられた。

先人の努力に思いを馳せ、感謝しつつ、森林の恵みを暮らしに活かしながら豊かな森林づくりを支え、子や孫の世代に美しいふるさとを確実に引き継いでいくため、私たちは、決意を新たに、次の事項に重点を置いて、緑化運動の更なる展開を図ることを宣言する。

- 未来へ豊かな森林をしっかりと引き継いでいくため、国民・企業・NPOなど多様な主体による「国民参加の森林づくり運動」の更なる展開を図る。
- 森林・木材の積極的な利活用により、森林・林業の循環を取り戻し、林業の再生・木材産業の振興、山村の活性化を促進する。
- 森林や木の文化を学び、緑を育む森林・環境教育の充実等により、緑豊かなふるさとを愛する心豊かで健やかな青少年を育成する。

平成28年6月5日

第67回全国植樹祭

記念事業・関連事業

記念事業

お手植えカラマツの整備

- 【時期】 平成26年10月19日(日)
【場所】 茅野市八子ヶ峰
【内容】 お手植えカラマツ周辺の環境整備

長野県で前回(昭和39年)開催された第15回大会で昭和天皇・香淳皇后がお手植えになられたカラマツ周辺の環境整備を地元の皆さんと行いました。



平成27年度 ふるさとの森づくり県民の集い

(第66回 長野県植樹祭・第67回全国植樹祭1年前イベント)

- 【時期】 平成27年5月30日(土)
【場所】 大町市鹿島槍スポーツヴィレッジ
HAKUBA VALLEY 鹿島槍スキー場
【内容】 式典、森林整備活動、森林教室など

第67回全国植樹祭の開催機運の醸成と、県民参加による森林づくりを一層進めることを目的として開催しました。



第67回全国植樹祭200日前イベント

- 【時期】 平成27年11月18日(水)
【場所】 ホクト文化ホール(長野市)
【内容】 カウントダウンセレモニー
対談 森の哲学者 内山 節氏
NPO法人「森は海の恋人」理事長 畠山 重篤氏

全国植樹祭の成功に向けてカウントダウンセレモニーを行ったほか、「里山」と「海」で森に関わりながら生きる2人の実践者に、次世代へのメッセージを語っていただきました。



第67回全国植樹祭100日前イベント

- 【時期】 平成28年2月26日(金)
【場所】 JR長野駅善光寺口駅前広場(長野市)
【内容】 太鼓の演奏 真田勝鬨太鼓
信州上田真田陣太鼓保存会

全国植樹祭の成功を祈念して太鼓を演奏いただき、演奏後には両団体と会場が一体となり、全国植樹祭の成功への願いを込めて勝鬨をあげました。



第67回全国植樹祭1ヵ月前記念植樹

- 【時期】 平成28年4月21日(木)
【場所】 長野市若穂中央公園
【内容】 障がい者団体等の皆さんによる植樹

多くの県民の皆さんにご参加いただくため、苗木のホームステイ等に参加した障がい者団体等の皆さんによる植樹を、5月21日から始まる県民植樹まで1ヵ月の節目に実施しました。



全国植樹祭シンボル「木製地球儀」のリレー展示

- 【時期】 平成27年5月30日(土)から
平成28年3月25日(金)まで
【場所】 県民植樹会場の開催市町
イベントなど

全国植樹祭を全県で盛り上げるため、全国植樹祭のシンボル「木製地球儀」のリレーセレモニーを開催し、県内各地で展示しました。



苗木のスクールステイ

- 【時期】 平成26年2月～平成28年6月
- 【規模】 みどりの少年団、小・中学校・高校等から242校、約12,000人参加
- 【内容】 1万本以上の苗木を育成

第67回全国植樹祭等で使用する苗木をみどりの少年団・小中高等学校などで育てました。



苗木のホームステイ

- 【時期】 平成26年9月～平成28年6月
- 【規模】 県内にお住まいの方、企業又は自治会等様々な県民、団体約2万人以上が参加
- 【内容】 4万本以上の苗木を育成

第67回全国植樹祭等で使用する苗木をご家庭などで預かっていただける方を募集し、稚苗から苗木に育成していただきました。



関連事業

第45回全国林業後継者大会

- 【時期】 平成28年6月4日(土)
- 【場所】 飯山市文化交流館なちゅら
- 【内容】 県内の林業後継者による活動発表、
先進事例報告など
- 【規模】 県内外の林業後継者 450人
- 【開催テーマ】 「人・技・気持ち つなげよう 未来へ」

全国の林業関係者が一堂に会し、森林を育む担い手として果たす役割について意見を交わし、健全な森林を持続的に育成することにより、豊かな社会を築くことを全国へ発信する大会とします。



応援イベント

- 【時期】 平成27年4月から
平成29年3月まで
- 【場所】 県内各地
- 【内容】 植樹、森林整備、木育、木工など

全国植樹祭の開催理念に賛同いただいた企業・団体等が実施する緑化イベントなどを応援イベントとして位置づけ、全国植樹祭の開催をPRしていただくとともに、開催機運の醸成を図りました。



「森林の国」信州キャンペーン

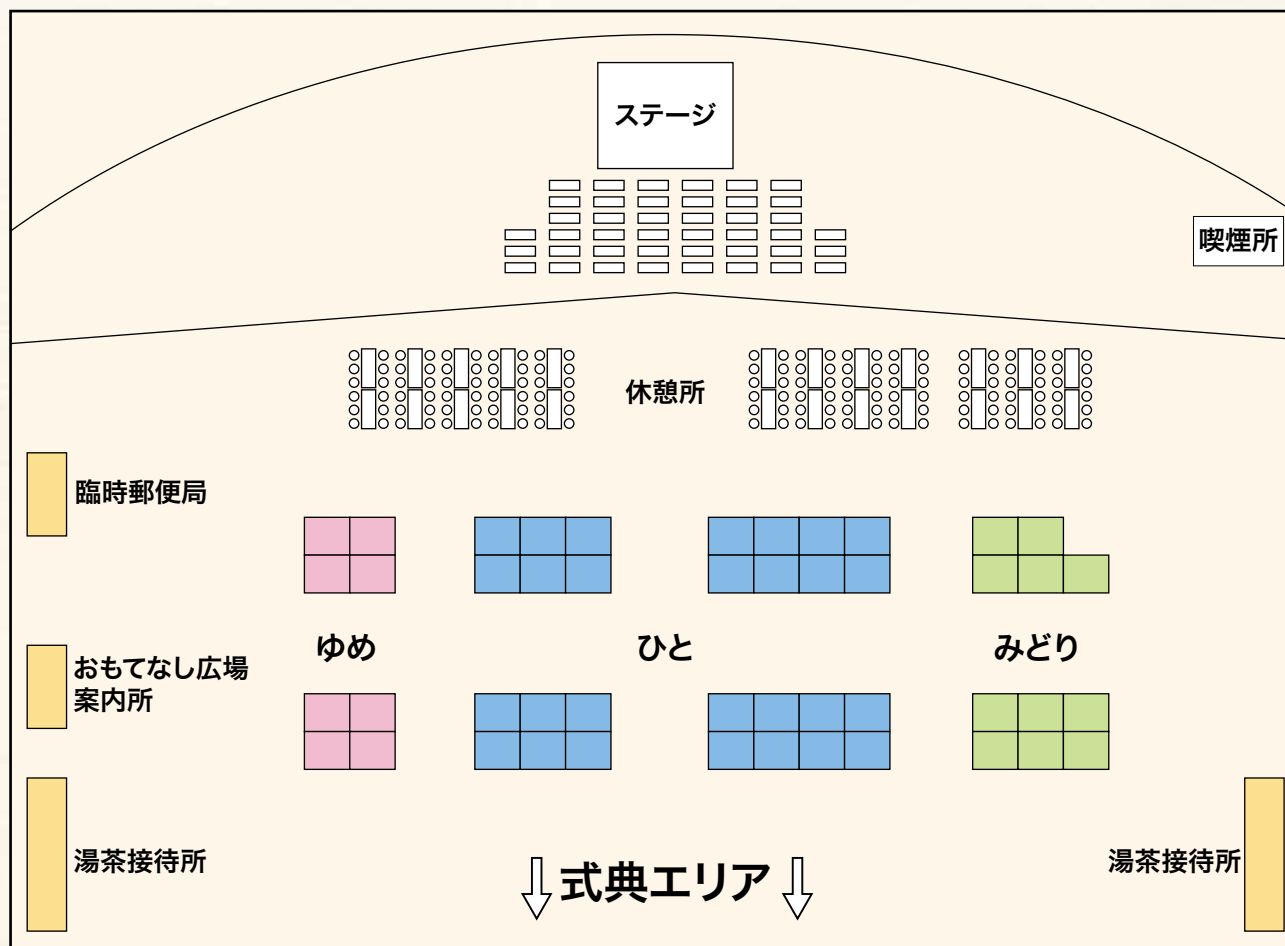
- 【掲載日】 平成27年5月30日付、7月25日付、
9月26日付、11月28日付、
平成28年1月30日付、3月27日付、
5月14日付、6月4日付
- 【媒体】 信濃毎日新聞 朝刊 全県版

信濃毎日新聞のシリーズ特集を計8回(計27ページ)掲載しました。信州の豊かな自然と森林の恵みへの感謝の念を、紙面キャンペーンを通じて県民に浸透を図りました。



おもてなし広場マップ

式典会場に隣接して「おもてなし広場」を設置します。広場内では、県内各地域の特色ある飲食物や特産品の提供・販売、観光PR、森林・林業に関する取組の紹介、ステージイベント等を実施し、長野県の魅力を発信します。



おもてなし広場ステージ スケジュール

～絆に感謝～ 8:50～9:40	
演目	出演団体
トーク	司会 ミス日本みどりの女神
太鼓の演奏	榮太鼓 栄ふるさと太鼓
アルプホルンと ヒノキ三味線の演奏	大桑アルプホルンクラブ 大桑村ヒノキ三味線クラブ 「檜弦」
太鼓の演奏	日本アルプス白馬八方太鼓保存会

～信州が育んだ「木と森の響き」～ 12:30～13:20	
演目	出演団体
国土緑化運動のPR	ミス日本みどりの女神
コカリナの演奏	長野コカリナ合奏団
バイオリンの演奏	(公社)才能教育研究会 スズキ・メソード

おもてなし広場出展者一覧

広場内を大会テーマである「ひと・ゆめ・みどり」に対応する3つのエリアに区分し、それぞれのエリアのテーマに沿ったブースを配置します。

	出展者	出展内容
「ひと」エリア ～長野県や県内市町村の 魅力発信を行うエリア～	マルシェかわかみ	川上村の特産レタスと物産品及び加工品の販売
	道の駅 雷電くるみの里	東御市産のくるみを使ったおはぎとお菓子を販売
	長和町特産品	長和町の自然の恵みをぎゅっと集めました。特産品の販売
	諏訪地方観光連盟	諏訪エリアの魅力をご紹介します!
	食どころ	農家直送手づくりドレッシング、ドライフルーツの販売
	いつわ農産加工	もち米自家生産、原料すべて地元産、手づくりのおこわ、ジュース、ジャム、餅等の販売
	塚原信州珍味	信州伊那谷の高級珍味の販売
	本坊酒造(株) 信州マルス蒸留所	マルスウイスキー、南信州ビールの販売
	菓子処飯田 みつばつつじ	飯田下伊那地域の代表銘菓と特産品で作ったお菓子の販売
	「おあがりて～都会にないものが、ここにある。～」天龍農林業公社	信州最南端の天龍村から、こだわりの柚子をお届けします
	(有)肉のスズキヤ	南信州名物遠山ジンギスと山肉の販売
	食の塩梅	木曾の朴の葉を使った季節限定の郷土のお菓子、県内産地粉とそば粉、村内産のえごまを販売
	上松町特産品開発センター利用組合	地元産の米と小豆で手作りの「ほお葉巻き」等の特産品販売
	道の駅白馬	白馬村特産品、北アルプス山麓ブランド認定品の販売
	(有)ふるさと鬼無里	鬼無里の「えごま」を使用したえごまクッキーの販売
	飯綱町商工会	飯綱の美味しい林檎で作ったスイーツ等のご紹介
	小川村農林公社みらい	地元の新鮮野菜を使った「おやき」、信州・小川「薬師の水」の販売
	千曲商工会議所	地元産の杏を活用した商品の販売
	信州なかの	信州なかの発(きのこ・スイーツ)の販売
	信州いいやま謙信笹ずし協議会	上杉謙信ゆかりの合戦食「笹ずし」の販売
	(一社)信州いいやま観光局	ブナの実が豊作の年にしか作れない幻の「ブナの実羊羹」を販売
	須賀川竹細工振興会	根曲がり竹を手で割り手で編んだ日用雑貨を販売
	道の駅北信州やまのうち	根曲がり竹とサバ缶のたけのこ汁「サバタケ」の販売
JA全農長野	りんご三兄弟ソフトクリーム、スティックサラダの試食	

	出展者	出展内容
「ゆめ」エリア ～しあわせ信州の取組・信州 ブランドの魅力発信を 行うエリア～	長野県花きイノベーション推進協議会	初夏の長野県産切り花の装飾展示
	長野県の伝統的工芸品・長野県中小企業団体中央会	長野県内の伝統的工芸品の展示販売
	長野県観光部	県内各地の観光地のご紹介、オリジナル缶バッジ製作体験
	(一社)信州・長野県観光協会	長野県のような土産品を販売
	長野県県民文化部次世代サポート課	信州やまほいく(信州型自然保育)の紹介
	信州ACE(エース)プロジェクト	「信州ACE(エース)プロジェクト」の取組等に関するパネルの展示
	G7長野県・軽井沢交通大臣会合	G7長野県・軽井沢交通大臣会合に関するパネルの展示等

	出展者	出展内容
「みどり」エリア ～森林・林業に関する取組の 情報発信を行うエリア～	(公財)長野県緑の基金	緑の基金の活動報告・募金・絵本の販売
	林野庁 中部森林管理局	中部森林管理局の取組紹介 木製バッジづくり
	長野県森林組合連合会	長野県内森林組合での取扱い商品と林業資材
	長野県森林セラピー協議会	パネル展示、パンフレット配布(県内森林セラピー基地の案内)
	長野県木材協同組合連合会・長野県県産材利用推進室	県産材のPR・県内木工製品の展示販売
	信州ジビエ研究会	信州ジビエのお土産販売、鹿茸・鹿角製品の展示、販売
	第1回「山の日」記念全国大会実行委員会	第1回「山の日」記念全国大会の広報活動
	富山県	第68回全国植樹祭の紹介、優良無花粉スギ「立山 森の輝き」のPR、富山県の観光PR

	出展者	出展内容
サービス等	おもてなし広場案内所	会場案内、落とし物・迷い人の対応など
	湯茶接待所	お茶・水の無料提供
	飲食スペース	テーブルを設置
	臨時郵便局	記念切手販売、記念押印、ゆうパックの引き受け

※開催内容については、一部変更になることがあります。

大会弁当

全国植樹祭において日本一の長寿県「長野」の魅力を十分に伝えるため、長野県産の食材を沢山使い、長野県の健康長寿を支えてきた食文化や、県下各地の特色を活かしたオリジナル弁当を製作しました。

【信州長寿物語 食寿彩】

しよくじゅさい

①凍み豆腐のから揚げ きこのあんかけ

長野県の特産品の凍み豆腐ときこのこを使用しました。

②きこのキッシュ

平成27年度きこの料理コンクールで入賞した「きこのキッシュ風ドリア」をアレンジしました。

りんごのコンポート

長野県産りんご「ふじ」を使用してコンポートに仕上げました。

③風さやか

風さやかは長野県が開発し、平成25年に品種登録された新しいお米です。

冷めてももちりとしていて香りもしっかりと残るのが特徴の一つです。

きゃらぶき

長野県産のふきを使用しました。

④鹿肉の竜田揚げ

長野県内で捕獲されたニホンジカのロース肉を使用しました。長野県では鳥獣被害対策の一環として、信州ジビエの普及に取り組んでいます。

⑤なすのおやき

長野県の粉食文化を象徴する、代表的な郷土食です。地域や家庭により、焼く、蒸かすなどの調理法があり、具材も野沢菜、切干大根、かぼちゃ、あんこなど様々なバリエーションがあります。

⑥塩丸いかのマリネ

冷蔵庫が無かった時代から、海の無い長野県で貴重な海産物として各地で食べられてきた保存食です。



⑦五平餅(御幣餅) くるみみそ

米粒が残る程度に潰したものをタレをつけて焼き上げたもので、県内では古くから食べられてきた郷土食です。楕円型、わらじ型、団子型など様々な形があります。

⑧アスパラガスのえごま和え

長野県産グリーンアスパラガスを使用しました。

⑨信州サーモン 山葵風味の野沢菜ソース

信州サーモンは長野県が10年かけ開発したブラウントラウトとニジマスの交配種です。

お茶について

信州・安曇野の北アルプスのお水で丁寧に抽出したすっきりした味わいの緑茶です。

香り高い国産厳選茶葉を使用しています。



お箸について

木曽ひのきの間伐材を使用して製作しました。

手に馴染む角丸箸と縁起の良い五角(合格)箸です。

記念品としてお持ち帰りください。



大会弁当コンセプト

- ① 信州の食の魅力をご紹介します！ -長野県の特徴を活かした県産材料の使用-
- ② 信州の山の恵みを味わってみませんか？ -信州ジビエ・きのこの活用-
- ③ 健康長寿はまず食から！ -信州の健康長寿食の継承-

おもてなし弁当選定委員会

大会弁当製作にあたり、多角的・専門的な視点で検討を行うため、有識者5名で構成された「おもてなし弁当選定委員会」を設置しました。

メニュー検討チーム

具体的な弁当メニューのアイデアを検討するため、県内の栄養学課程のある長野県短期大学、松本大学、長野女子短期大学、飯田女子短期大学の学生で「メニュー検討チーム」を設置しました。



おもてなし弁当選定委員会



メニュー検討チーム



検討経過

平成27年7月から12月の間に弁当選定委員会会議、メニュー検討チーム検討会をそれぞれ3回ずつ開催し、大会弁当のメニューを検討しました。

このお弁当は ACE弁当の基準を満たしています。

長野県では健康づくりの県民運動『信州ACEプロジェクト』のEat(健康に食べる)の取組として、塩分や野菜の量などに配慮した、健康づくりを応援する弁当の普及を図っています。

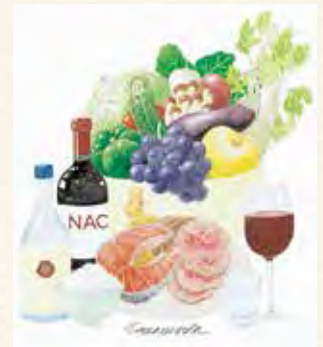
野菜の使用量	140g
食塩相当量	2.7g
エネルギー	686kcal

信州
ACE
プロジェクト

おいしい信州ふード(風土)について

長野県には、それぞれの地域で受け継がれてきた伝統的な食文化やおいしい食べ物があり、それが日本一の長寿県を支えています。

これら長野の食を「プレミアム」「オリジナル」「ヘリテイジ」の3つの基準で厳選し「おいしい信州ふード(風土)」として県内外にその魅力を発信しています。



おいしい信州ふード(風土)

協賛一覧

協賛 第67回全国植樹祭へのご協賛ありがとうございました。

資金協賛



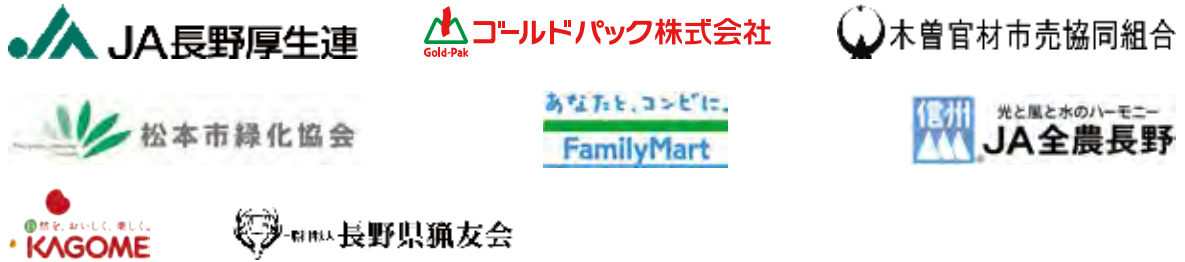
資金協賛 つづき



林業木材製造業労働災害防止協会長野支部・分会 佐久森林組合 一般財団法人日本森林林業振興会長野支部 特定非営利活動法人信州フォレストワーク
 一般社団法人長野林業土木協会 長野国有森林整備協会 大栄産業株式会社 株式会社アドヴァンス長野事業部 株式会社アイバックス
 一般社団法人長野県林業普及協会 長野県治山林道協会 株式会社プロテックエンジニアリング ゼンリン緑の募金 学校法人成城学園
 松本地域森林林業振興会 松本ロータリークラブ60周年記念事業 株式会社八幡屋儀五郎 株式会社ステーションビル MI DO RI 株式会社信州芽吹堂
 長野県医師会常務理事会 長野県司法書士会

第一生命保険株式会社長野支社 みどり産業株式会社 川中島建設株式会社 一般社団法人長野県造園建設業協会 特定非営利活動法人長野県環境緑化協会 株式会社小賀坂スキー製作所
 上小林業振興会 下伊那山林協会 国土防災技術株式会社長野支店 諏訪地域森林づくり・林業振興会 一般社団法人長野県自動車整備振興会諏訪支部 佐久森林林業振興会
 長野県水源林造林協議会 昭和コンクリート工業株式会社 上松電子株式会社 株式会社長野林友 株式会社木曽駒ミクロ 日野製薬株式会社 ラインハルト株式会社 株式会社薄井商店
 日精樹脂工業株式会社 株式会社けいかく 長野県養蜂協会 特定非営利活動法人よませ自然学校 南木曽町森林組合 大北治山林道倶楽部 日鐵住金建材株式会社長野営業所
 特定非営利活動法人やまぼうし自然学校 株式会社IHIターボ 一般財団法人小原流長野県連合会 南木曽発条株式会社 一般社団法人斜面防災対策技術協会長野支部 株式会社カーミックス
 有限会社鶴コーポレーション 信越木材株式会社 木曽町観光協会 特定非営利活動法人飯綱高原よっこらしよ 株式会社マイパール長野 松本ロータリークラブ 長野県信用保証協会
 長野県神道青年会

物品協賛



積水樹脂株式会社 大一工業株式会社 横川区もみじの里づくり特別委員会・横川里山の会 木曾山林協会 木曽森林組合
 松竹園有限会社 長野県木材協同組合連合会 木曽南部森林組合 南木曽町森林組合 NPO 法人 森林環境 翠翔会

その他協賛



テレビ信州 長野県木材協同組合連合会 長野放送 abn長野朝日放送 SBC信越放送
 長野パナソニックファミリー会 昭和電工株式会社 大町事業所 諏訪信用金庫 株式会社都筑製作所 日本たばこ産業株式会社 上信越支社
 イオンリテール(株)・マックスバリュ長野(株)・イオンクレジット(株) 高橋まゆみ人形館 東信運送株式会社 諏訪赤十字病院 中央アルプス観光株式会社 長野遊覧人会 長野さくらの会 JX日鉱日石エネルギー株式会社

故郷

高野辰之 作詞
岡野貞一 作曲

一、 兎追ひし彼の山

小鮒釣りし彼の川

夢は今も巡りて

忘れ難き故郷

二、 如何にいます父母

恙無しや友がき

雨に風につけても

思ひ出づる故郷

三、 志を果たして

いつの日にか歸らん

山は青き故郷

水は清き故郷

長野県歌 「信濃の国」

浅井 洌 作詞
北村季晴 作曲

一、 信濃の国は十州に 境連ぬる国にして

聳ゆる山はいや高く 流るる川はいや遠し

松本伊那佐久善光寺 四つの平は肥沃の地

海こそなけれ物さわに 万ず足らわぬ事ぞなき

二、 四方に聳ゆる山々は 御嶽乗鞍駒ヶ岳

浅間は殊に活火山 いずれも国の鎮めなり

流れ淀まずゆく水は 北に犀川千曲川

南に木曾川天竜川 これまた国の固めなり

三、 木曾の谷には真木茂り 諏訪の湖には魚多し

民のかせぎも豊かにて 五穀の実らぬ里やある

しかのみならず桑とりて 蚕飼いの業の打ちひらけ

細きよすがも軽からぬ 国の命を繋ぐなり

四、 尋ねまほしき園原や 旅のやどりの寢覚の床

木曾の棧かけし世も 心してゆけ久米路橋

くる人多き筑摩の湯 月の名にたつ姨捨山

しるき名所と風雅士が 詩歌に詠てぞ伝えたる

五、 旭将軍義仲も 仁科の五郎信盛も

春台太宰先生も 象山佐久間先生も

皆此国の人にして 文武の誉たぐいなく

山と聳えて世に仰ぎ 川と流れて名は尽す

六、 吾妻はやとし日本武 嘆き給いし碓氷山

穿つ隧道二十六 夢にもこゆる汽車の道

みち一筋に学びなば 昔の人にや劣るべき

古来山河の秀でたる 国は偉人のある習い



第67回 信濃から 未来へつなぐ 森づくり 全国植樹祭 ながの 2016

長野県林務部森林づくり推進課全国植樹祭推進室

〒380-8570 長野県長野市大字南長野字幅下692-2
TEL 026-235-7276 FAX 026-234-0330

全国植樹祭ながの2016

検索